タイトル：2023 年度　中東-イスラーム研究セミナー(第 24 回)
日時：2023 年 12 月 23 日(土)～24 日(日)
場所：東京外国語大学　アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階マルチメディア会議室(304)

「日本・イラン映画の無声時代に於ける映画の悪影響に対する懸念の比較研究」
ザーケリー・ゴドラトッラー(明治大学大学院教養デザイン研究科博士課程)

私は、2023 年 4 月に、博士課程に進学するために明治大学大学院教養デザイン研究科へ入学した。私が博士論文のテーマとして選んだのは「近代日本とイランに於ける、映画の受容に関する文化的考察」である。本報告では、博士論文の一部として取り上げたいと考えている「日本・イラン映画の無声時代に於ける映画の悪影響に対する懸念の比較研究」を報告した。タイトルからわかるように、この論文では、日本映画とイラン映画の無声時代に於ける映画の悪影響に対する懸念に焦点を当てた。もちろん自分の指導教官はイランの問題に詳しい専門家であるが、他の日本のイラン研究者からの意見を知る機会があればいいなと思った。この機会を AA 研の「2023 年度中東-イスラーム研究セミナー」で得られた。

私が 2023 年度中東-イスラーム研究セミナーに参加する決断をした理由は、アジア・アフリカ言語文化研究所が西アジアの問題、特にイスラーム諸国に詳しい専門家を多く抱えているからだった。もちろん自分の指導教官からも薦められた。最終的には、今度のセミナーで、「イラン映画の無声時代に於ける映画の悪影響に対する懸念」を中心に報告し、非常に有益なコメントを頂いた。私の発表の司会された近藤先生をはじめ、飯塚先生、黒木先生、野田先生などからの貴重なコメントを聞き、今後の論文に向けてより良いものを書く努力をしたい。

今度のセミナーは、別の視点からも私にとって価値あるものだった。私が来日する前に研究員として従事していたテヘラン大学世界研究学部日本研究学科で、私たちは日本の研究に取り組んでいた。日本と比較して、イランに於いて他の国と地域の研究は比較的新しい学問領域である。そのため、この分野でも私達は日本から学ぶことができると思う。今度のセミナーは、私にとって学びの機会であり、その中で多くのことを学べたと考えている。

最後に、今度のセミナーを開催したすべての関係者と、私の発表に耳を傾けて貴重な意見を提供してくれたすべての参加者に厚く御礼申し上げる。